

## 海外短期実習 台湾 (2017年1月17~19日)

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教  
折本 裕一

アジア諸国の政治、経済、歴史、文化を現地に赴いて肌で学ぶことを目的として、昨年度の韓国に引き続き、2016年度の海外短期実習は台湾(高雄を中心とした南部)を訪問した。今回の実習には九州大学から学生28



名、教員17名、テクニカルスタッフ2名の計47名が参加した。また、本実習は、訪問先の一つである中山大学の学生・ポストドク等21名も参加して行われた。16日夜に高雄市入り後、翌17日に同市にある国立中山大学(National Sun Yat-sen Univ.)を訪問した。海と山に囲まれた自然豊かで美しい場所にある総合大学である。午前9時からジョイントワークショップを行ない、午前中は教員4名による講演、午後は学生によるグループディスカッションとその発表、続いて学生4名による研究発表が行われ、午後4時半に閉会した。ワークショップでは、科学技術、経済発展、環境問題等に関する最新の研究報告に基づき活発な意見交換が行われた。また、グループディスカッションでは3つの学生チームが各種テーマに基づき、ユニークな視点からのプレゼンテーションを繰り広げた。



翌18日には高雄市より北に移動し、台南市にある南部サイエンスパーク(Tainan Science and Technology Park)を訪れた。午前中、医薬品原料メーカーであるサイノファーム台湾(ScinoPharm Taiwan, Ltd.)を訪問し、会社の説明を受けた後、質疑応答を行った。午後には、同パーク内の半導体メーカーTSMC社(Taiwan Semiconductor Manufacturing Co., Ltd.)を訪問し、施設見学等を行った。ここでは、一部の学生等がクリーンルーム用作業服の着用体験を行った。最先端の製薬、半導体分野の雰囲気を感じ取ることのできた一日となった。最終日の19日には、再び中山大學を訪問し、研究室の見学、および、汚染物質の検出に関する研究の演習を見学した。

3日間と言う短い時間ではあったが、大学、産業界の両方の視点から台湾の科学技術と経済発展を実体験することができた。さらには、台湾から見た日本の位置付けなども感じ取れた。GAコース生の教育にとって大変有益な実習であったと考える。本実習は中山大學、サイノファーム台湾、TSMCのGAプログラムへの理解と協力無しには実現できないものであり、厚く感謝申し上げたい。

九州大学グリーンアジア国際リーダー教育センター・助教  
折本 裕一

